

## ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部看護学

名前 山本 道代

作成日 2024年2月26日

### 【責任】

看護学科に所属し、老年看護学を専門とした教育および研究活動を行っている。主たる教育活動は、学部生に対する老年看護学（老年看護学概論、老年看護学援助論、老年看護学援助論演習、老年看護学援助技術論演習、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ、生活者を知る実習）、看護学の専門科目（終末期看護、看護学研究法、卒業研究）、を担当している。大学院生に対しては、看護学研究方法論の教授および研究指導を行なっている。また、看護学科内の役割として、クラス担任を担っており、大学の役割として保健医療学倫理委員会の委員を担っている。

### 【理念】

学生には、臨床の多様性に対応できる力を身に付けてほしいと考えている。対象者個々の病態や生活および考え方は千差万別である。看護は、それら対象者がより早く疾患から回復する過程や、障害を抱えながら生活することを支える。そのためには、第一に、人体や病態に関する基礎的な知識、および基本的な看護技術の獲得が必須である。万人に共通する生理的機能や病態および看護技術を基準とすることで初めて、個々の違いを認識できるようになる。第二に、対象者の個々の違い、即ち個性を引き起こしている背景を理解することが重要である。対象者に最適な看護とは、基礎的な知識と技術を、対象者の個性に鑑みて応用することだと考える。

また、知識と技術を自ら獲得するような積極性を涵養してほしいと考える。看護師は、勤務時間が不規則なため生活リズムが崩れやすい職業である。また、終末期に関わることで精神的な負担を抱えることもある。そのように心身への負荷が大きい環境においても、新たな知識や技術を学びつづけなければならない。他者から押し付けられた学びではなく、自ら学修への意欲を持てる人になってほしい。

【方針・方法】上記の理念を実現するために、「講義に集中できる環境を整える」「双方向の授業で学生に興味を持ってもらう」「知識を有機的に結びつける工夫をする」「臨床の多様性を伝える」を方針とする。以下にそれぞれの方針に対する方法を記す。

#### 「講義に集中できる環境を整える」

方法1：授業開始と終了時間を厳守する。

方法2：講義のスライドは文字数を少なくし、写真、図、動画を用いる。重要なポイントにはハイライトで強調したり文字色の変更など工夫をする。

方法3：重要ポイントは繰り返す、ジャスチャーを入れる、口調を変えるなど単調にならないようにする。

方法4：講義に関連する国家試験問題をクイズ形式で入れる。

方法5：講義内容に合わせた臨床の実例を伝える。

#### 「双方向の授業で学生に興味を持ってもらう」

方法1：事前課題を課して提出された内容を確認し、学生の理解度を把握する。

方法2：提出された課題の中で、良い回答をしている学生を指名して答えてもらう。

方法3：正解がない問い（個人の考えなど）はなるべく多くの学生を指名して発言を促す。

方法4：グループワークを取り入れる。積極的な発言を促すために肯定的な態度や発言で参加すること、お互いの貢献度を評価することなど工夫する。

「知識を有機的に結びつける工夫をする」

方法1：事前課題は、基礎的な知識が復習できる内容を入れる。

方法2：教授する内容と共に、生理学や病態学など基礎的な知識と結び付けて伝える。

方法3：対象者理解の際は、常に科学的根拠を問いかける。

「臨床の多様性を伝える」

方法1：講義内容に合わせた臨床の実例を伝える。

方法2：技術演習の際は、対象者や場面に合わせた応用や看護技術のコツを伝える。

【成果・評価】

学生からの評価として、授業終了時のコメントシートや科目終了時の授業評価アンケートの結果が挙げられる。2023年度は、講義内容の分かりやすさやフィードバックの分かりやすさが挙げられていた。また、各科目のS、A、B、C、D（不合格）の5段階による成績分布は、AもしくはBを頂点とする正規分布に近く、ほとんどの学生は学修目標に達していると考えられる。一方で、授業内容の多さや進度の速さをコメントする学生が散見されたことから、理解に時間を要する学生への個別対応が課題として残されていると考える。ただし、一方的に不足部分を教授するのではなく、自ら学ぶ姿勢を育てる仕組みづくりを課題とした。

【目標】

短期的には、基礎的な知識と新たな学習内容を結び付けられる事前課題を作成する。また、事前課題に対してポジティブフィードバックを実践し、学生が自信をもって発言する土壌を整える。また、学生参加型・体験型の授業を組み立てる。これによって座学の知識と臨床をつなげる一助になると考える。このような取り組みによって、長期的には、学生が自ら課題を是発見し解決する学生像に近づけると考える。